

和歌山

地域面3ページ

和歌山支局

〒640-8154 和歌山市六番丁5
和歌山第一生命ビル4階
TEL 073(431)1411
FAX 073(433)0650
wakayama@mainichi.co.jp

【通信機関】

橋本	0736(32)0063	新宮	0735(28)1751
海南	073(482)0675	御坊	0738(22)2511
湯浅	0737(62)2870	田辺	0739(26)1026
【広告問い合わせ】		073(423)9291	
【購読問い合わせ】		0120-468012	

星の占い
マーク・矢崎
25日

熊野古道

くまのこうみち記

⑥

滝尻王子から熊野本宮大社までの熊野古道約3き手前の伏拝王子の石祠のある小高い丘に立つと、熊野川と果無山脈のパノラマが広がり、解放感に包まれる。

熊野川の遠景を追うと本宮大社の旧社地、大斎原の鳥居が見えるので、昔の参詣者もホッとする神域拜所であったろう。丘を下りると民家があり、庭先には「星の井戸」。5軒で共同使用するのがこ

に出していた。あいさつより先に、とっさの質問が飛び出してしまった。「広い畑に囲まれて、大きな家にぼつんとひとり暮らされて、寂しくありませんか」

「収獲物はどうされているのですか」
「孫とひ孫で10人、この地を出た友人も数人いるので、農業を使わない野菜を食べさせたくて、せっせ、せっせと送っているのよ。送ると子供や孫から、下りて貰い物すること

に見つからないように植木鉢で隠す工夫をしたり、床に就いて明日の仕事の段取りを考えたり、頭の中も忙しいの。ボケたら長男長女の都会に連れて行かれるので、ボケないように住み慣れたこの地で自然に育まれながら頑張りますよ」

の集落の慣わしとか。海拔約2500mの山頂だけに、その水脈に驚くばかりである。水確保の厳しい環境のもと、50年以上も自給自足の農業を営まれていた榎本タタエさん宅を訪ねた。

お住まいは熊野古道から100mほど下り坂を歩いたところにある農家。ちょうどお昼すぎで、ご当主は床下にある天然貯蔵庫「いも壺」からお芋

「おばあちゃんの野菜おいしいよ、また送ってね」の声を聞くのが楽しみだね」
老女は紅潮し、多弁になった。

「そうですか。お孫さんたちはどんなものが好評ですか」
「完熟梅をザラメ砂糖で煮込んだ梅ジャム。酒粕タクアン、ソバガラで灰汁抜きしたさしみコンニャク、天日干しの干しいも、生筍……。筍の芽を猿

猿、鹿とともに 野菜作り

たり、山桃の木に我が物顔のお猿さんのご来客、前庭の畑には植えたばかりの菜の新芽が夜中の鹿に食い荒らされてやり直しを考えた

「そうですか。お孫さんたちはどんなものが好評ですか」
「完熟梅をザラメ砂糖で煮込んだ梅ジャム。酒粕タクアン、ソバガラで灰汁抜きしたさしみコンニャク、天日干しの干しいも、生筍……。筍の芽を猿

お土産にいただいた透き通った梅ジャムをたべながら、家族の絆を大事にする老女の濁りなき想いと、彼女のさわやかな顔がジャムにだぶるのであった。

夜明けまえ楊梅手さぐる猿をり
秦華
(次回は10月9日掲載予定)



榎本さんのご自宅と畑(田辺市本宮町伏拝)

伏拝に生かされて80年

絵と文・熱田親憲 題字・熱田秦華